

アラスカの山々に魅せられて
遥かな高みに挑み続ける

くりあきまさとし

栗秋正寿さん

▲険しいルートが連続するハンターの頂上を目指す栗秋さん(2010年)

2月16日、植村直己さんの母校の明治大学紫紺館(東京都千代田区)で、2010「植村直己冒険賞」受賞者発表の会見を行いました。今回は、2010年に日本人が挑んだ217件の冒険行の中から、アラスカ山脈ハンター(標高4442m)に83日間かけ冬季単独登頂に挑戦された登山家の栗秋正寿さん(38歳、福岡市在住)を選びました。

栗秋さんはアラスカの自然に魅せられ、中央アラスカ山脈を代表する3つの山[マッキンリー(標高6194m)、フォレイカー(標高5304m)、ハンター]の冬季単独登頂に挑み続けています。

1998年、世界で4人目、史上最年少でマッキンリー冬季単独登頂に成功し、2007年、世界で初めてフォレイカー冬季単独登頂に成功しました。ハンターにはこれまで4度挑戦しましたが、悪天候により登頂を阻まれてきました。

5度目の挑戦では、気温零下50度、風速50mを越える暴風のなか、延べ53日間雪洞に滞在し、登頂を目指しましたが、今回も登頂のチャンスに恵まれませんでした。しかし、これまでの挑戦の中では、最も頂上に近い3300mまで到達し、目指す頂上がようやく見えてきました。

東京での会見の様子は、植村直己さんの母校の府中小学校にも中継され、栗秋さんは「偉大な冒険家“植村直己”さんの賞をいただき、大変光栄です。数々の冒険の中で、命の大切さを知ることができました。命の危険と隣り合わせの冒険ばかりですが、今後も自分なりに目標を持ち、自然、それから自分自身と向き合ってチャレンジし続けたいです。そして冒険の素晴らしさを日本の人々に伝えていく活動もしていきます」と喜びの言葉を述べました。

なお、本賞の授賞式は、6月4日(土)に日高文化体育館(日高町祢布)で行います。当日は、冒険賞の授与のほか、栗秋さんの講演も行う予定ですので、皆さん、楽しみにお待ちください。

《問合せ》植村直己冒険館 ☎44-1515



▲東京会場の発表の様子を見守る府中小学校6年生の児童と関係者ら



▲「冒険賞」を受賞し、喜びを語る受賞者の栗秋さん



▲雪洞内で登頂のチャンスをひたすら待ち続けた栗秋さん(2010年)



▲クレバス転落防止のためポールを腰に装着(2009年1月)

栗秋正寿さんプロフィール

- ・1972年、福岡県生まれ(福岡市在住)
- ・高校山岳部で登山を始め、1995年、大学山岳部の仲間と北米大陸最高峰マッキンリーに登頂
- ・「山の旅人」と自称する冬のアラスカ山脈登山の第一人者



■中央アラスカ山脈三大高峰への冬季単独登頂挑戦等 経歴

- 1997年 マッキンリーに挑むが、5200m地点で断念
- 1998年 マッキンリー登頂(世界4人目、史上最年少)
- 1998年 リヤカーを引きアラスカ縦断1400km
- 1999年 フォレイカー単独登頂 ※冬季記録を逃す
- 2001年 フォレイカー単独登頂 ※冬季記録を逃す
- 2002年 フォレイカーに挑むが、2590mで断念
- 2003年 ハンターに挑むが、2740mで断念
- 2004年 ハンターに挑むが、2540mで断念
- 2005年 ハンターに挑むが、2300mで断念
- 2006年 マッキンリーに挑むが、2750mで断念
- 2007年 フォレイカー登頂(世界初)
- 2009年 ハンターに挑むが、2600mで断念
- 2009年~10年 ハンターに挑むが、3300mで断念

■著書

『アラスカ垂直と水平の旅』

■栗秋正寿ホームページ

<http://www.japansecaribou.com/>

■83日間に及んだハンター挑戦の記録

- ・2009年12月30日 ベースキャンプ(BC)に入山。翌日から荷上げを開始
- ・2010年1月9日 キャンプ1(C1)にテントを設営。その後、膝から腰の深さまでであるザラメ雪と格闘し、ルート工作と荷上げに9日間を費やす。
- ・同年1月23日 C2へ移動(C2以上は、耐風対策としてすべて雪洞を利用した)
- ・同年2月4日 C3へ移動後、荒天となり、計15日間雪洞で停滞
- ・同年2月23日 雪庇とクレバスが並行して走る尾根を進み、C4に移動後も天候は悪く、雪洞で停滞
- ・同年3月6日 日程の遅れと残りの食料を考え、登頂を断念
- ・同年3月11日 下山開始。16日間過ごしたC4を撤退
- ・同年3月22日 BCに戻り、タルキートナに下山

※最高到達点は3300m 雪洞には計53泊

■想像を絶するアラスカ山脈の厳しい冬

- ・北極圏に近い為、気温が零下50度を下回り、風速50mを越える強烈な風に見舞われる。「低気圧の墓場」とも呼ばれ、天候が全く予想できない。
- ・好天は長続きせず、地吹雪やブリザード(暴風雪)が1~2週間続き、停滞を強いられる。

冬のアラスカ単独行は

ライフワーク

栗秋さんは、15歳の時に北アルプスを舞台にした映画に感動し登山を始めました。

高校・大学と山岳部で、大学時代に山岳部として初めての海外登山でマッキンリーに登頂し、それ以来、アラスカの大自然の美しさ、スケールの大きさ、神々しさに魅かれ、冬のアラスカ山脈を代表する三山に挑戦し続けています。北極圏特有の大変厳しい気

象条件でヒマラヤを超える過酷な世界を単独で通算12年もの間、挑戦し続ける栗秋さんの行動は、人間の可能性に挑んだものであり、私たちに勇気を与えてくれます。

また、アラスカにこだわり続け、厳しい自然を受け入れる謙虚な登山のやり方や地元アラスカに溶け込む栗秋さんの姿は植村直己さんに通じるものがあります。

今後も栗秋さんは「山の旅人」として、ライフワークである冬のアラスカ山脈単独行を



▲リヤカーを引きアラスカの大地を北上(1998年7月)

続け、いろいろな山旅のバリエーションを見据えています。